

2025年3月10日

蜷川実花展 with EiM：彼岸の光、此岸の影 実行委員会

京都市京セラ美術館を舞台に、蜷川実花 関西過去最大規模の展覧会

アートで記憶や感情と共鳴する“百人百様”の没入型絵巻体験

「蜷川実花展 with EiM：彼岸の光、此岸の影」

3月5日(水)に来場者が15万人突破し、蜷川実花がセレモニーに登場

3月30日(日)まで、京都市京セラ美術館にて開催



ご来場のお客様と蜷川実花

2025年1月11日(土)から3月30日(日)まで、京都市京セラ美術館（京都府京都市左京区岡崎円勝寺町124）にて、大好評開催中の「蜷川実花展 with EiM：彼岸の光、此岸の影」。このたび、多くの方々のご支持をいただき、3月5日(水)に来場者数15万人を、突破いたしました。心よりお礼申し上げます。

来場者15万人突破の報を受けた蜷川実花が、京都市京セラ美術館に来館し、来場のたくさんのお客様とともに15万人達成をお祝いしました。

■蜷川実花コメント

3月5日(水)に、15万人目のお客様をお迎えすることができました。
49日目での達成で、私もEiMのメンバーも、とても深く感動しております。

この展覧会は、たとえばクリスタルの作品だけでも1年以上かけてつくってたりと長いこと準備をしてきました。

とても思い入れがあって、私にとっては、次のステップに進むためにも、重要な展覧会になったと思います。

今回のテーマは「彼岸と此岸」や「光と影」など、相反するものを背中合わせに表現したものです。

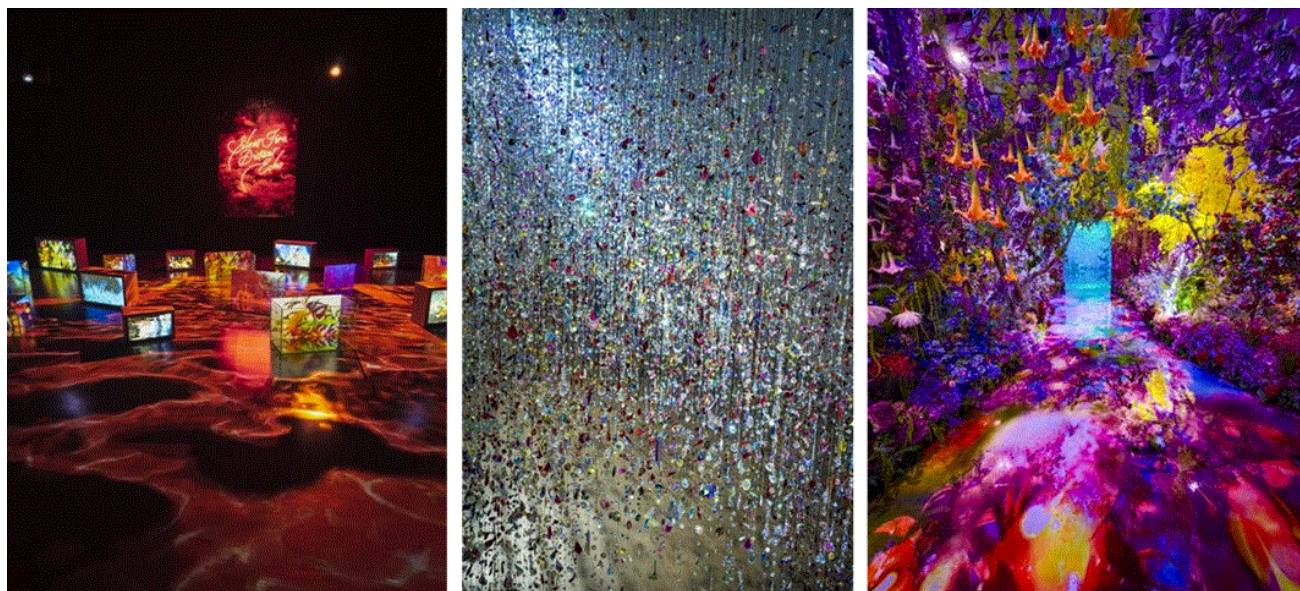
うつっているものはすべて現実世界にあるものをカメラ1台で撮ったもので構成していて、デジタル処理をほとんどせず、現実の世界と地続きの展覧会になっていると思います。

写真や映像を撮影するのは、世界を見る角度を少し変えるだけで、色々な素晴らしいことや面白いことを発見できるといつも思っています。
展覧会を見る前、見た後に、少しでも世界のとらえ方が変わるような、そして見てくれた方の背中を少しでも押せるような展覧会になっていたら嬉しいです。

また、展覧会の開幕直前に撮影した図録も完成しました。
すごく良い出来になっていて、解説や展覧会のバックグラウンドも掲載しており、どうやって展覧会がつくられていったかご覧いただけます。

本当に幸せな気持ちで、これからの新しいモノを作っていく背中を、皆さんに押しただけだと思います。
本当にありがとうございました。

本展は、蜷川実花および各分野のスペシャリストによるクリエイティブチーム EiM（エイム）として挑む展覧会で、蜷川実花が作品づくりを手掛ける展覧会としては、関西で過去最大規模の個展で、1月の開幕より数多くの方々にご来場いただき、連日熱気に包まれています。京都国際観光大使も務めた蜷川実花が、時といのちの流れを感じる京都の街からインスピレーションを受け、「彼岸の光、此岸の影」をテーマに手掛けました。本展のために制作した作品にはCGではなく、全て現実世界の写真・映像を用いており、日常の中にある光と影にフォーカスした“^{こうさいしよく}光彩色”、“^{えい}影^{さいしよく}彩色”で表現した空間となっております。光と影、彼岸と此岸、作家と鑑賞者、自己と他者など、相反するものの境界線が揺らぎ、視覚や感覚を通じて、自身の記憶や感情と共鳴する“百人百様”の体験ができます。展示は空間全体を使った全10作品で構成された体験になっており、映像によるインスタレーション、立体展示などを通し、鑑賞者が作品の中に入り込み、自身がまるで物語の主人公になったような全10話の“絵巻体験”へと誘います。



©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

クリエイティブチーム EiM

写真家・映画監督の蜷川実花と、データサイエンティストの宮田裕章、セットデザイナーのENZO、クリエイティブディレクターの桑名功、照明監督の上野甲子朗らで結成されたクリエイティブチーム。プロジェクトごとに多様なチームを編成しながら活動する。

主な作品発表に、「胡蝶の旅 Embracing Lights」（安比Art Project、2022年）、蜷川実花「残照 / Eternity in a Moment」（小山登美夫ギャラリー前橋、2023年）、「蜷川実花展 Eternity in a Moment 輝きの中の永遠」（TOKYO NODE、2023年-2024年）、「蜷川実花展 with EiM：儚くも煌めく境界」（弘前れんが倉庫美術館 2024年）、「深淵に宿る彼岸の夢」（森の芸術祭 晴れの国・岡山 満奇洞 2024年）など。

展覧会概要

- ・会期：2025年1月11日（土）～2025年3月30日（日）
- ・開館時間：10：00～18：00（最終入場は17：30まで）
- ※3月15日（土）・16日（日）/ 09：00～18：00（最終入場は17：30まで）
- ※3月20日（木祝）～23日（日）、3月25日（火）～30日（日）/ 09：00～19：00（最終入場は18：30まで）
- ただし、3月28日（金）のみ/ 09：00～18：00（最終入場は17：30まで）となります。

- ・休館日：月曜日

- ・会場：京都市京セラ美術館 新館 東山キューブ（京都府京都市左京区岡崎円勝寺町124）
- ・主催：蜷川実花展 with EiM：彼岸の光、此岸の影 実行委員会
- ・協賛：大成建設 ガトーフェスタ ハラダ 協力：LEDTOKYO 株式会社 荻野いづみ
- ・公式サイト：<https://ninagawa-eim2025kyoto.jp/>

チケット

チケット販売の詳細は、公式サイト(<https://ninagawa-eim2025kyoto.jp/>)をご参照ください。
※本展では、混雑状況緩和のため、3月30日までの期間、予約優先制を導入させていただきます。
事前に日時指定券を購入するか、既にチケットをお持ちのお客様は事前に日時予約のうえご来館ください。

| 券種 | 料金 |
|----------|--------|
| 一般 | ¥2,300 |
| 大学・専門学校生 | ¥1,600 |
| 高校生 | ¥1,100 |
| 小中学生 | ¥800 |

- * 団体割引料金（団体は20名以上前売り料金）
- * 障がい者手帳等：本人及び介護者1名無料
- * 未就学児のお子様は無料、保護者（中学生以上）